作成日：2008年04月01日
改訂日：2011年01月01日

製品安全データシート（MSDS）

1.製品及び会社情報

製 品 名　：　**ジョンストーンWクリーナーA**
会 社 名　：　ディバーシー株式会社
住　　所　：　神奈川県横浜市中区山下町22番地　山下町SSKビル／〒231－0023
担当部門　：　カスタマーテクニカルセンター
　　電話番号：045－640－2222／FAX番号：045－640－2216
　緊急連絡先　：　お客様ご相談窓口／電話番号：045－640－2280
製品説明　：　水性アルカリクリーナー
　　用途；天然石床用洗浄剤兼剥離剤
整理番号　：　3179077

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性

人の健康に対する有害な影響

- 吸入した場合、鼻・喉・気管支・肺を刺激し、処置が遅れるとしわがれ声、咽喉部の灼熱感、激しい咳、肺浮腫を生ずる。
- 皮膚に触れた場合、強い刺激作用があり処置が遅れると皮膚が侵され熱傷にいたる。低濃度溶液でも水分の蒸発により同様な症状を起こす。
- 目に入った場合、激しい痛みを感じ、処置が遅れるとその程度によって結膜や角膜が侵され視力低下あるいは失明にいたる。
- 飲み込んだ場合、口腔・食道・胃部の灼熱感がある。濃い液を多量に飲み込んだ場合、処置が遅れると生命にかかわる。

環境への影響

- 大量の場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

- 不燃性であるが、酸性物質と反応し中和熱を発生する。
- アルミニウム、スズ、亜鉛などの金属と反応し、爆発性のある水素ガスを発生する。

国内法及び認証規格の要約

- 化学物質管理促進法（PRTR法）／　第一種指定化学物質
  第20号　　2－アミノエタノール　　6．8%
- 労働安全衛生法／通知対象物　　第21号　2－アミノエタノール　6．8%
  第319号　水酸化ナトリウム　1～5%
  第79号　エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル　　0．1～10%
- 労働安全衛生法／表示物質　　3の5　エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル
- 労働安全衛生法／有機則　　エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル
- 危険物船舶輸送及び貯蔵規則／　腐食性物質
- 環境ホルモン疑義物質
  環境省「内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質（65物質）」を使用していない。

CASBEE 清掃用ケミカル判定表

評価項目	判定基準	判定結果
水素イオン濃度	原液＝pH5～pH9	アルカリ性
シックハウス配慮	厚生労働省が室内濃度に関する指針値を策定した揮発性有機化合物(VOC)において、原料に含まれていない事。	○
急性経口毒性	LD50：＞2,000mg/Kg	○
VOC濃度	沸点260℃未満のVOCにおいて、製品に定める最低希釈倍率でのVOC含有量が洗浄剤＜1%　床用保護剤＜7%	1%以上
化学物質排出把握管理促進法【PRTR把握物質】	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）における「第一種指定化学物質」と「第二種指定化学物質」を指定割合以下	6.8%

○･･･適合

本製品のGHS分類

急性毒性（経口）　区分外

ラベル要素
絵表示又はシンボル

注意喚起語　警告
危険有害性情報　金属腐食のおそれ

注意書き

【予防策】
他の容器に移し替えないこと。
【応急措置】
物的被害を防止するため流出したものを吸収すること。
【保管】
耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託すること。

労働安全衛生法通知対象物質の有害性の要約

労働安全衛生法　通知対象物　第21号　2－アミノエタノール

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分4
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分5
	急性毒性（経皮）	区分3
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類対象外（粉じん）
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない（ミスト）
	皮膚腐食性・刺激性	区分1A
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（神経系、肝臓）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語：　危険

危険有害性情報：
可燃性液体
飲み込むと有害のおそれ（経口）
皮膚に接触すると有毒（経皮）
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
神経系、肝臓の障害
長期又は反復ばく露による神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器の障害
水生生物に毒性

注意書き：
【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
炎及び高温のものから遠ざけること。
換気が十分でない場合には呼吸用保護具を着用すること。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
火災の場合には適切な消火方法をとること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
呼吸に関する症状が出た場合には、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚刺激又は発疹がおきた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

労働安全衛生法　通知対象物　　第319号　水酸化ナトリウム

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外

	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語：危険

危険有害性情報：
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
呼吸器の障害
水生生物に有害

注意書き：
【安全対策】
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
使用中に吸入されうる粒子が発生するかもしれない場合は、粉じんを吸入しないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
【保管】
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

労働安全衛生法　通知対象物　　第79号　エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分4
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
	急性毒性(経皮)	区分2
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分2
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系、血液、腎臓、肝臓)、区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分2(血液)
	吸引性呼吸器有害性	分類対象外
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル:

注意喚起語:　危険

危険有害性情報:

可燃性液体
飲み込むと有害(経口)
皮膚に接触すると生命に危険(経皮)
吸入すると生命に危険(蒸気)
皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
中枢神経系、血液、腎臓、肝臓の障害
呼吸器への刺激のおそれ
長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き:

【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
炎及び高温のものから遠ざけること。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
呼吸用保護具を着用すること。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

眼、皮膚、又は衣類に付けないこと。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
火災の場合には適切な消火方法をとること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	：	混合物
成分	：	水酸化ナトリウム 2-アミノエタノール エチレングリコールモノブチルエーテル 水

4. 応急措置

吸入した場合	：	ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動し、鼻をかんだり、うがいをする。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで充分に洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで充分に洗い流す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の診断を受ける。
目に入った場合	：	直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。その後、直ちに医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合	：	直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
その他	：	使用中、目に異状を感じたり、咳き込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用を止めてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または製品安全データシートを持参する。

5. 火災時の措置

消火剤	：	水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
消火方法	：	本製品は不燃物であるが、周辺火災の場合は速やかに安全な場所に移す。移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	：	消火作業では保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	：	保護具（保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴等）を着用する。 漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	：	雨水溝、河川、海上などに排出されないように注意する。
除去方法	：	スクイジーなどを用いて、できる限り空容器などに回収する。 回収しきれないものは、多量の水で充分に洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い　：
- ・洗浄作業や洗浄剤容器の取扱い時は必ず保護具（保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴等）を着用する。
- ・使用時は換気を良くする。
- ・体調の悪いときは使わない。
- ・キャップを開けるときに液が飛び出すことがあるので注意する。また、容器を移動するときにはキャップをしっかり閉める。緩んでいると液が跳ねて目や皮膚に付くことがある。
- ・スプレーヤーなどで使用する場合は、必ず噴射口を下方に向け、目線よりも高い所で噴射しない。顔より高い箇所を洗浄するときは洗浄液を布やスポンジにつけて塗る。
- ・飛散した液やミストを吸い込んだり、目に入らないようにする。
- ・他の薬剤・洗浄剤などとは絶対に混ぜない。
- ・誤飲等事故の恐れがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしたりしない。
- ・用途以外に使用しない。
- ・倒したり、こぼしたりしないように注意する。
- ・アルミニウム製の食器類や漆器の洗浄を避ける。
- ・銅、銅合金、スズ製の物品の洗浄、接液を避ける。
- ・使い終わった容器は、充分に洗ってから処理する。

保管　：
- ・直射日光、40℃以上、多湿および凍結の恐れのある場所を避けて密閉して保管する。
- ・酸性物質と同じ場所に保管しない。
- ・子供の手の届かないところに保管する。
- ・保管条件によっては色調が変化することがあるが、品質、性能に影響はない。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策　：ミストや蒸気が滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。
取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

管理濃度　：設定されていない。

許容濃度　：設定されていない。

保護具　：

呼吸器用の保護具	；	保護マスク
手の保護具	；	ゴム手袋
目の保護具	；	保護メガネ
皮膚及び身体の保護具	；	ゴム長靴、保護衣

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状、色	：	無色透明液体
pH	：	13.3（原液，25℃）
アルカリ度	：	4.8%（NaOH換算）
粘度	：	4.2mPa･s（原液，25℃）
比重	：	1.02（20℃）
不揮発分	：	4.3%
引火点	：	測定不能。 ただし、成分内容から＞93℃と判断される。
溶媒に対する溶解性	：	水溶性
におい	：	特異臭
沸点	：	＞90℃
融点・凝固点	：	＜0℃
溶解度	：	データなし
燃焼又は爆発範囲	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
蒸気密度	：	データなし
水分配係数	：	データなし
自然発火温度	：	データなし
分解温度	：	データなし
蒸発速度	：	データなし

（注）数値はいずれも代表値で表示

10. 安定性及び反応性

安定性	：	通常の取扱い条件（屋内、常温）においては安定である。
反応性	：	・ 酸性物質と反応し中和熱を発生する。 ・ アルミニウム、スズ、亜鉛などの金属と反応し、爆発性のある水素ガスを発生する。
避けるべき条件	：	酸性物質との接触、直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態
避けるべき材料	：	アルミニウム、銅、銅合金、スズなどの金属、漆器
危険有害な分解生成物	：	特になし

11. 有害性情報

本製品の有害性情報

急性毒性	：	経口 LD50 2,183mg/kg（アルビノラット） 経皮 LD50 データなし 吸入 LC50（1時間） データなし 吸入 LC50（4時間） データなし
局所効果	：	吸入した場合 ・ 強い刺激作用がある。 皮膚に触れた場合 ・ 強い刺激作用がある。 目に入った場合 ・ 激しい痛みを感じ、結膜や角膜が侵される。 飲み込んだ場合 ・ 口腔、食道、胃部の灼熱感がある。
感作性	：	データなし
慢性毒性	：	データなし
長期毒性	：	データなし

労働安全衛生法通知対象物質の有害性情報

労働安全衛生法 通知対象物 第21号 2－アミノエタノール

急性毒性	：	経口 ラット LD50 3320mg/kg 飲み込むと有害のおそれ（区分5） 経皮 ウサギ LD50 1000mg/kg 皮膚に接触すると有毒（区分3） 吸入（蒸気） 情報なし
皮膚腐食性・刺激性	：	動物を用いた皮膚刺激性試験のデータから、「腐食性を有する」と考えられるため、区分1Aとした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1A）
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	：	ウサギを用いた眼刺激性試験のデータから、「眼に対して強度の刺激性を有し、また皮膚が腐食性を示すので、目も腐食性を有する」と考えられるため、区分1とした。 重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感作性又は皮膚感作性	：	呼吸器感作性：ヒトに対する健康影響のデータの記述「極めて低い濃度の本物質を含むエアロゾル吸入誘発試験では、14人全員が陽性応答（咳、鼻水、鼻詰まり、喘息様呼吸）を示した」から、「呼吸器感作性を有する」と考えられるため、区分1とした。 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ（区分1） 皮膚感作性：ヒトに対する健康影響のデータにて、本物質に弱い皮膚感作性があると判断していることから、「皮膚感作性を有する」と考えられるため、区分1とした。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（区分1）
生殖細胞変異原性	：	生殖細胞 in vivo 経世代変異原性/変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験（小核試験）で陰性である。
発がん性	：	データなし
生殖毒性	：	ラットの催奇形性試験で母毒性のみられる用量で、胎児に腎盂拡張がみられていることから区分2とした。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）		ヒトについては、「頭痛、吐き気、脱力、めまい、指先のしびれ、胸の痛み」、「肝臓の腫大、血清中のALT レベル及びアルカリ性ホスファターゼの活性の増加、6か月後に慢性肝炎」、実験動物については、「運動失調、痙攣」、「肝細胞の脂肪変性」から、神経系、肝臓が標的臓器と考えられた。 神経系、肝臓の障害（区分1）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	：	実験動物については、「自発運動の抑制、し眠、皮膚への刺激、不整呼吸、死亡(83%)が観察され、さらに、死亡例に精子形成の阻害、消化管への影響(小腸壁の菲薄化、乾燥糞による閉塞)が報告されている。げっ歯類では、肝臓に肝細胞の脂肪変性、肺の間質におけるリンパ様組織の増加がみられている。」、「イヌの生存

例で、肝臓にうっ血、肝細胞の空胞化と混濁腫脹、クッパー細胞中の褐色色素の増加、脾臓で白脾髄におけるリンパ球の減少、赤脾髄における褐色色素貪食マクロファージの増加と赤血球の減少、腎臓で尿細管上皮に硝子顆粒の増加、曲尿細管上皮細胞の混濁腫脹、肺にうっ血と小出血巣、イヌの死亡例で、気管支肺炎、脾臓でリンパ球と赤血球の減少がみられている。」等の記述があることから、神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器が標的臓器と考えられた。
長期又は反復ばく露による神経系、精巣、消化管、肝臓、腎臓、呼吸器の障害（区分1）

吸引性呼吸器有害性：データなし

労働安全衛生法 通知対象物 第319号 水酸化ナトリウム

急性毒性：
- 経口：ウサギのLD50 値 325mg/kgのデータのみで、げっ歯類のデータがないため、指針に基づき、分類できないとした。
- 経皮：データがなく分類できない。
- 吸入(ガス)：GHSの定義における固体であるため、分類対象外とした。
- 吸入(蒸気)：データなし
- 吸入(ミスト)：データなし

皮膚腐食性・刺激性：ヒト皮膚に対して0.5%以上で刺激性強度の腐食性を引き起こすとの記述及びブタ皮膚に対して8%以上で腐食性ウサギ皮膚に対して5% 4時間で重度の壊死を引き起こすとの記述から、区分1とした。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

眼に対する重篤な損傷・刺激性：ヒト眼に対して重篤な損傷を引き起こす及びウサギ眼に対して1.2%以上で腐食性を引き起こすとの記述から、区分1とした。
重篤な眼の損傷

呼吸器感作性又は皮膚感作性：
- 呼吸器感作性:データがないため、分類できないとした。
- 皮膚感作性:ヒト皮膚での感作性試験で皮膚感作性は認められないとの記述から、「区分外」とした。

生殖細胞変異原性：in vivo マウス骨髄小核試験で陰性及び in vitro 変異原性試験のエームズ試験で陰性との結果から、区分外とした。

発がん性：週1回12週間のラット飲水投与において発がん性が認められないとの報告はあるが、データ不足のため、分類できないとした。

生殖毒性：生殖及び発生毒性で有用なデータはないとの記述から、データ不足のため、分類できないとした。

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述から、区分1（呼吸器系）とした。
呼吸器の障害

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：ラットでの吸入反復ばく露で肺に障害を与えるとの記述があるが、データ不足のため、分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性：データなし

労働安全衛生法 通知対象物 第79号 エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル

急性毒性：

経口	ラット(雄)	LD50	1746mg/kg 2410mg/kg 4)
吸入	ラット(雄)	LC50	2.4mg/L/4H(486ppm/4H)
吸入	ラット(雌)	LC50	2.2mg/L/4H(450ppm/4H)
経皮	ウサギ	LD50	99mg/kg 435mg/kg 610mg/kg

飲み込むと有害（区分4）
皮膚に接触すると生命に危険（区分2）
吸入すると生命に危険（区分2）

皮膚腐食性・刺激性：5試験の結果、4試験において刺激性がみられた。そのうちの１試験では6例中3例で痂皮と浮腫を伴う重度の紅斑がみられている。高濃度の本物質を含む床剥ぎ剤を使用した掃除人が、紅斑と接触性皮膚炎を起こしたとの報告がある。
皮膚刺激（区分2）

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：OECDガイドライン準拠の試験を含む複数の試験で、ウサギの眼に対し重度の刺激性が認められるが回復性がある。
強い眼刺激（区分2A）

呼吸器感作性又は皮膚感作性：
- 呼吸器感作;データなし。
- 皮膚感作性;OECDガイドライン準拠の2回のモルモットMaximization testでいずれも陰性。
ヒトの反復傷害パッチテスト（GLP準拠）で皮膚感作性はない。

生殖細胞変異原性：in vivo 変異原性又は遺伝毒性の各試験でいずれも陰性。
ヒト疫学調査で、小核・姉妹染色分体の増加は認められない。

発がん性 : IARC グループ3(ヒト発がん性に分類できない物質)
生殖毒性 : 複数の動物試験で、生殖・発生毒性、胎児毒性及び催奇形性は認められない。
ヒトの疫学調査で口唇裂発生のリスクが取り上げられているが、本物質との関連性は肯定されていない。
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 動物では赤血球への影響が特徴的であるが、ヒトではヘモグロビン、赤血球の減少、ヘモグロビン尿など血液への影響のみならず、昏睡、めまい、呼吸困難、代謝性アシドーシス、血尿、肝機能異常、中枢神経系、血液、腎臓、肝臓に対する影響がある。
中枢神経系、血液、腎臓、肝臓の障害(区分1)
ヒト吸入試験で、鼻及び喉の刺激、反復性の呼吸器への刺激及び乾性咳の症例報告がある。
呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) : ヒトで反復ばく露後の血液パラメータの変化についての報告があるが、特に重大な毒性影響についての報告は見当たらない。
動物の吸入ばく露で血液(赤血球)に毒性影響が認められている。23)
長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ(区分2)
吸引性呼吸器有害性 : データなし

---

12. 環境影響情報

移動性 : データなし
残留性、分解性 : データなし
生体蓄積性 : データなし
生態毒性 : アルカリ性であるため、大量の場合は水生生物に対して影響を及ぼす。
その他の情報 : BOD(原液);140, 000mg/L
COD(原液); 60, 000mg/L

---

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。
- 少量の場合は、水で希釈してから酸(希硫酸など)で中和してから排出する。廃棄処理するときは、保護具を着用する。
- 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

汚染容器、包装 : 使い終わった容器は、水で充分に洗ってから処理する。

---

14. 輸送上の注意

国内法規制 : 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。
危険物船舶輸送及び貯蔵規則／ 腐食性物質

輸送の特定の安全対策及び条件
- 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。
- 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。
- 積載にあたっては酸性物質との混載は避ける。
- 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。
- 水濡れを避ける。

---

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法 : 該当しない
化学物質管理促進法(PRTR法) : 該当する
／ 第一種指定化学物質 第20号 6.8%
2－アミノエタノール
労働安全衛生法／通知対象物 : 該当する
／ 第21号 2－アミノエタノール 6. 8%
／ 第79号 エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル 5～10%
／ 第319号 水酸化ナトリウム 1～5%
表示物質 : 該当する
: ／ 3の5 エチレングリコールモノブチルエーテル
有機則 : 該当する／エチレングリコールモノブチルエーテル
特化則 : 該当しない
消防法 : 該当しない
危険物船舶輸送及び貯蔵規則 : 該当する／腐食性物質

16. その他の情報

問い合わせ先 ： ディバーシー株式会社
カスタマーテクニカルセンター
電話番号:045－640－2222／FAX番号:045－640－2216

改訂の記録 ： 作成 ； 2008年04月01日
改訂 ； 2008年11月05日
改訂 ； 2009年09月15日
改訂 ； 2010年04月01日(社名変更)
改訂 ； 2011年01月01日(JIS Z 7250:2005書式へ変更)

引用文献 ：
- 製品安全データシートの作成指針(改訂版)
[(社)日本化学工業協会(平成13年10月)]
- JIS Z 7250:2005／化学物質等安全データシート(MSDS)
- 労働安全衛生関係法令集[労務行政研究所]
- 13901の化学商品[化学工業日報社]
- 化学品安全管理データブック[化学工業日報社]
- 公害防止の技術と法規(水質編)[(社)産業公害防止協会]
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方
[(財)日本規格協会]
- 2－アミノエタノール MSDS [安全衛生情報センター]
- 水酸化ナトリウム MSDS [安全衛生情報センター]
- エチレングリコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル MSDS
[安全衛生情報センター]

※記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データなどに基づいて作成しており、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、ご使用の際には用途・用法に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。

以上

作成日：２００８年０４月０１日
改訂日：２０１１年０１月０１日

製品安全データシート（ＭＳＤＳ）

１.製品及び会社情報

製 品 名　：**ジョンストーンWクリーナーB**
会 社 名　：ディバーシー株式会社
住　　所　：神奈川県横浜市中区山下町２２番地　山下町ＳＳＫビル／〒２３１－００２３
担当部門　：カスタマーテクニカルセンター
　　電話番号：０４５－６４０－２２２２／ＦＡＸ番号：０４５－６４０－２２１６
緊急連絡先：お客様ご相談窓口／電話番号：０４５－６４０－２２８０
製品説明　：２液性風合い復元漂白剤
　　用途；石床用の洗浄剤として
整理番号　：３１７９０７７

２．危険有害性の要約

本製品の危険有害性の要約

最重要危険有害性

人の健康に対する有害な影響

- 吸入した場合、鼻・喉・気管支・肺を刺激する。
- 皮膚に触れた場合、強い刺激作用があり処置が遅れると皮膚が侵され熱傷にいたる。低濃度溶液でも水分の蒸発により同様な症状を起こす。
- 目に入った場合、激しい痛みを感じ、処置が遅れるとその程度によって結膜や角膜が侵され視力低下あるいは失明にいたる。
- 飲み込んだ場合、口腔・食道・胃部の灼熱感がある。濃い液を多量に飲み込んだ場合、処置が遅れると生命にかかわる。

環境への影響

- 大量の場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

- 酸性物質であるため、アルカリ性物質と反応し中和熱を発生する。

国内法及び認証規格の要約

- 労働安全衛生法／通知対象物　　第１２６号　過酸化水素　０．１～６％
- 労働安全衛生法／　表示物質　　過酸化水素
- 環境ホルモン疑義物質
  環境省「内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質（６５物質）」を使用していない。

CASBEE 清掃用ケミカル判定表

評価項目	判定基準	判定結果
水素イオン濃度	原液＝ｐＨ５～ｐＨ９	酸性
シックハウス配慮	厚生労働省が室内濃度に関する指針値を策定した揮発性有機化合物(VOC)において、原料に含まれていない事。	○
急性経口毒性	ＬＤ50：＞２，０００mg/Kg	○
ＶＯＣ濃度	沸点２６０℃未満のＶＯＣにおいて、製品に定める最低希釈倍率でのＶＯＣ含有量が洗浄剤＜１％　床用保護剤＜７％	○
化学物質排出把握管理促進法【PRTR把握物質】	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（ＰＲＴＲ法）における「第一種指定化学物質」と「第二種指定化学物質」を指定割合以下	○

○･･･適合

本製品のＧＨＳ分類

ラベル要素

絵表示又はシンボル　特になし

注意喚起語　特になし

危険有害性情報　特になし

注意書き　特になし

労働安全衛生法通知対象物質の有害性の要約

労働安全衛生法　　通知対象物 第１２６号　過酸化水素

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	火薬類	区分外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	区分外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	区分1
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分4
	急性毒性（経皮）	区分5
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分3
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分1A-1C
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（呼吸器・中枢神経系）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（肺），区分2（血液）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語：　危険

危険有害性情報：

火災又は爆発のおそれ；強酸化性
飲み込むと有害（経口）
皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）
吸入すると有毒（蒸気）
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器・中枢神経系の障害
長期又は反復ばく露による肺の障害、長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き：

【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
熱から遠ざけること。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
防火服、防災服、耐火服を着用すること。
適切な保護手袋、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
衣類及び他の可燃物から遠ざけること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
火災の場合には適切な消火方法をとること。
大火災及び大量の場合：区域より退避させ、爆発の危険性により遠くから消火すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚（または髪）に付着した場合、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
衣類にかかった場合：服を脱ぐ前に、直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗うこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
可燃物、その他の禁忌物質から離して保管すること。
容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

３．組成、成分情報

単一製品・混合物の区分	：	混合物
成分	：	過酸化水素 水

４．応急措置

吸入した場合	：	ミストを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所に移動し、鼻をかんだり、うがいをする。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに多量の水でぬめり感がなくなるまで充分に洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、直ちに脱ぎ皮膚を多量の水でぬめり感がなくなるまで充分に洗い流す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の診断を受ける。
目に入った場合	：	直ちに流水で１５分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。その後、直ちに医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合	：	直ちに水で口の中を洗浄し、コップ１～２杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
その他	：	使用中、目に異状を感じたり、咳き込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用を止めてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または製品安全データシートを持参する。

５．火災時の措置

消火剤	：	水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
消火方法	：	本製品は不燃物であるが、周辺火災の場合は速やかに安全な場所に移す。移動ができない場合は、風上より容器周辺に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	：	消火作業では保護具を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項 ： 保護具（保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴等）を着用する。
漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項 ： 雨水溝、河川、海上などに排出されないように注意する。
除去方法 ： スクイジーなどを用いて、できる限り空容器などに回収する。
回収しきれないものは、多量の水で充分に洗い流す。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い ：
・洗浄作業や洗浄剤容器の取扱い時は必ず保護具（保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴等）を着用する。
・使用時は換気を良くする。
・体調の悪いときは使わない。
・キャップを開けるときに液が飛び出すことがあるので注意する。また、容器を移動するときにはキャップをしっかり閉める。緩んでいると液が跳ねて目や皮膚に付くことがある。
・スプレーヤーなどで使用する場合は、必ず噴射口を下方に向け、目線よりも高い所で噴射しない。顔より高い箇所を洗浄するときは洗浄液を布やスポンジにつけて塗る。
・飛散した液やミストを吸い込んだり、目に入らないようにする。
・対象面によっては変色や染色を起こすことがあるので、予め目立たないところで確認の上、使用すること。
・他の薬剤・洗浄剤などとは絶対に混ぜない。
・誤飲等事故の恐れがあるので、飲料用の容器を含む他の容器に移し替えたり小分けしたりしない。
・用途以外に使用しない。
・倒したり、こぼしたりしないように注意する。
・アルミニウム、銅、銅合金、スズ製の物品の洗浄、接液を避ける。
・使い終わった容器は、充分に洗ってから処理する。

保管 ：
・直射日光、４０℃以上、多湿および凍結の恐れのある場所を避けて密閉して保管する。
・子供の手の届かないところに保管する。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策 ： ミストや蒸気が滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。
取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。
管理濃度 ： 設定されていない。
許容濃度 ： 設定されていない。
保護具 ：

呼吸器用の保護具	： 保護マスク
手の保護具	： ゴム手袋
目の保護具	： 保護メガネ
皮膚及び身体の保護具	： ゴム長靴、保護衣

９．物理的及び化学的性質

物理的状態

形状、色	：	無色透明液体
ｐＨ	：	４．２（原液／２５℃）
粘度	：	２．９　mPa･s（原液，２５℃）
不揮発分	：	１．５％
比重	：	１．０２（２０℃）
溶媒に対する溶解性	：	水溶性
におい	：	特異臭
沸点	：	＞９０℃
融点・凝固点	：	＜０℃
溶解度	：	データなし
引火点	：	データなし
燃焼又は爆発範囲	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
蒸気密度	：	データなし

水分配係数　：　データなし
自然発火温度　：　データなし
分解温度　：　データなし
蒸発速度　：　データなし
（注）数値はいずれも代表値で表示

１０．安定性及び反応性
安定性　：　通常の取扱い条件（屋内、常温）においては安定である。
反応性　：　・アルカリ性物質と反応し中和熱を発生する。
避けるべき条件　：　直射日光、４０℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態
避けるべき材料　：　特になし
危険有害な分解生成物　：　特になし

１１．有害性情報
本製品の有害性情報
急性毒性　：　経口　＞５，０００mg/Kg（アルビノラット）
経皮　LD_{50}　データなし
吸入　LC_{50}（１時間）　データなし
吸入　LC_{50}（４時間）　データなし
局所効果　：　吸入した場合
・強い刺激作用がある。
皮膚に触れた場合
・強い刺激作用がある。
目に入った場合
・激しい痛みを感じ、結膜や角膜が侵される。
飲み込んだ場合
・口腔、食道、胃部の灼熱感がある。
感作性　：　データなし
慢性毒性　：　データなし
長期毒性　：　データなし

労働安全衛生法通知対象物質の有害性情報
労働安全衛生法　通知対象物　　第１２６号　過酸化水素
急性毒性：　：　経口　ラットの4データから計算で得られたLD50=311mg/kgに基づき，区分4とした。
飲み込むと有害（区分4）
経皮　ラット　LD50 4060mg/kg
皮膚に接触すると有害のおそれ（区分5）
吸入（蒸気）　本物質の飽和蒸気圧濃度は1980ppmであり，蒸気で行われたと考えられる試験で得られた，ラットLC50=1438ppmに基づき，区分3とした。
吸入すると有毒（区分3）
皮膚腐食性・刺激性　ウサギに対して3分間，1時間または4時間の適用で，皮膚の全層におよぶ壊死，あるいは腐食性との結論が記載されていること，およびEUでC; R35に分類されていることから，本物質は皮膚に対して腐食性を示すと考えられる。しかし，細分類するには情報が不足しているため，区分1A-1Cとした。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1A）
眼に対する重篤な損傷/刺激性　：　本物質は皮膚腐食性物質である。動物でsevereな刺激性を有し，corrosiveであるとの記載がある。以上の情報に基づき，区分1とした。
重篤な眼の損傷（区分1）
呼吸器感作性又は皮膚感作性　：　呼吸器感作性：データなし
皮膚感作性：モルモットでは2試験で陰性の成績があり，ヒトではパッチテストで多数の被験者が陰性であったと記載されている。しかし，ヒトのパッチテストで158例中2例が陽性であったとの記載もあり，データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性　：ヒト経世代疫学，経世代変異原性試験，生殖細胞in vivo変異原性試験の結果が無く，マウスを用いる小核試験で陰性の結果が記載され，生殖細胞 vivo遺伝毒性試験で陽性結果がないことに基づき，区分外とした。。
発がん性　：　IARCで3 、ACGIHでA3と分類されているされているが，分類年の新しいIARCの方を採用して，技術指針に従い区分外とした。
生殖毒性：　in vitroの実験でヒト精子への影響が見られたとの記載があり，動物試験において親動物の一般毒性に関する記述はないが，精子運動能への影響，雌の発情周期への影響，出産母獣数の減少，および出生児の体重減少が見られたとの記載があることに基づき，区分2とした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：動物およびヒトにおいて鼻，喉，気管への刺激性が記載されている。動物ではいずれも区分1のガイダンス値の範囲内の用量で肺および気管のうっ血，肺水腫，肺気腫，気管上皮の壊死の記載がある。これらに基づき，区分1（呼吸器）とした。ヒトで頭痛，めまい，振戦，けいれん，昏もう，失神，および脳梗塞の記載があることに基づき，区分1（中枢神経系）とした。
呼吸器・中枢神経系の障害（区分1）

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：イヌにおける蒸気の吸入試験で，区分1のガイダンス値範囲内の用量で肺に線維組織巣が散見され，無気肺領域と気腫領域の混在を認め，ヒトにおいても肺に刺激性を有するとの記載があることから，区分1（肺）とした。ラット経口投与で区分2のガイダンス値範囲の用量で，白血球数，ヘマトクリット値に影響が見られ，溶血を認めたことに基づき，区分2（血液）とした。
長期又は反復ばく露による肺の障害（区分1）
長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ(区分2）。

吸引性呼吸器有害性：データ不足のため分類できない

１２．環境影響情報

移動性：データなし
残留性、分解性：データなし
生体蓄積性：データなし
生態毒性：データなし
その他の情報：ＢＯＤ（原液）；７６，０００mg/L
ＣＯＤ（原液）；２６，０００mg/L

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物：下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。
- 少量の場合は、水で希釈してから排出する。
  廃棄処理するときは、保護具を着用する。
- 多量の場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。

汚染容器、包装：使い終わった容器は、水で充分に洗ってから処理する。

１４．輸送上の注意

国内法規制：特になし
輸送の特定の安全対策及び条件
- 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどがないことを確認する。
- 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。
- 積載にあたっては酸性物質との混載は避ける。
- 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- 直射日光、４０℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。
- 水濡れを避ける。

１５．適用法令

毒物及び劇物取締法：該当しない
化学物質管理促進法（ＰＲＴＲ法）：該当しない
労働安全衛生法／通知対象物：該当する
／第１２６号　過酸化水素　０．１～６％
表示物質：該当する／６の２　過酸化水素
有機則：該当しない
特化則：該当しない
消防法：該当しない
危険物船舶輸送及び貯蔵規則：該当しない

１６．その他の情報

問い合わせ先：ディバーシー株式会社
カスタマーテクニカルセンター
電話番号：０４５－６４０－２２２２／ＦＡＸ番号：０４５－６４０－２２１６

改訂の記録　：作成　；　２００８年０４月０１日
改訂　；　２００８年１１月０５日
改訂　；　２００９年１０月０１日
改訂　；　２０１０年０４月０１日（社名変更）
改訂　；　２０１１年０１月０１日（JIS Z 7250:2005書式へ変更）

引用文献　：

- 製品安全データシートの作成指針(改訂版)
  [(社)日本化学工業協会(平成１３年１０月)]
- ＪＩＳ Ｚ ７２５０：２００５／化学物質等安全データシート（ＭＳＤＳ）
- 労働安全衛生関係法令集[労務行政研究所]
- １３９０１の化学商品[化学工業日報社]
- 化学品安全管理データブック[化学工業日報社]
- 公害防止の技術と法規（水質編）［（社）産業公害防止協会]
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方
  [(財)日本規格協会]
- 過酸化水素　ＭＳＤＳ　[安全衛生情報センター]

※記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データなどに基づいて作成しており、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、ご使用の際には用途・用法に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。

以上